

1. 地域環境保全基金の残高等

			金額 (単位:円)	備 考
①	基金総額 (前年度末基金残高)		127,638,738	
	内訳	うち、国費相当額	63,819,369	
		うち、地方負担相当額	63,819,369	
		うち、負担附寄附金等	0	
②	基金運用益		757,387	
③	その他収入		0	
④	負担附寄附金等		0	
⑤	返納額		0	
⑥	基金執行額 (処分額)		36,567,388	内訳は下表のとおり
⑦	基金残高		91,828,737	(=①+②+③+④-⑤-⑥)
	内訳	うち、国費相当額	45,914,368	
		うち、地方負担相当額	45,914,369	
		うち、負担附寄附金等	0	

2. 保有割合

	次年度の基金類型	取崩型	金額 (単位:円)	備考
⑧	基金残高		91,828,737	
⑨	事業費 (次年度から終了年度までの見込額)		87,894,774	
⑩	保有割合		1.045	= (⑧/⑨)

保有割合の算定根拠

運用型: 運用益見込額 ÷ 事業費 (次年度見込額)

取崩型: 基金残高 ÷ 事業費 (次年度から終了年度までの見込額)

3. 国庫補助金相当額の国庫返還の可否 (運用型はすべて、取崩型は2. 保有割合が1以上の場合に限る。)

⑪	使用見込額を上回る資金の国庫補助金相当額の国庫返還の可否	否
⑫	返還可能額	
⑬	返還時期	
⑭	返還が困難である理由	最終年度まで基金を活用するため

4. 事業一覧

番号	事業名	事業費			備考	達成度	事業費 (次年度)	事業費 (終了まで)
		合計	一般財源等	基金充当額				
1	生物多様性戦略推進事業(1)生態系の場の維持事業	10,539,719	17,000	10,522,719		86%	10,500,000	21,000,000
2	環境人財育成事業(1)北九州市環境首都検定	6,133,963	1,730	6,132,233	運用益757,387	76%	8,457,387	16,914,774
3	環境先端技術・施策の見える化普及啓発事業	7,704,185	206,860	7,497,325		100%	9,990,000	19,980,000
4	「イチャホン」発信事業(1)自然環境等のポータルサイト運営	2,804,240	0	2,804,240		15%	3,000,000	6,000,000
5	「イチャホン」発信事業(1)デジタル環境学習コンテンツを活用した啓発	2,766,960	0	2,766,960		100%	2,500,000	5,000,000
6	Re:chargekitaQプロジェクト プロモーション事業	2,746,821	0	2,746,821		91%	3,000,000	4,000,000
7	サステナブルシティ拠点化事業	3,000,000	0	3,000,000		35%	6,000,000	12,000,000
8	北九州市風力発電人材育成事業	1,097,090	0	1,097,090		83%	1,500,000	3,000,000
		0						
合 計		36,792,978	225,590	36,567,388			44,947,387	87,894,774

5. 基金事業の目標に対する達成度

成果指標	環境活動に関する市民意識調査結果、検定受験者数	
	成果実績	生物多様性戦略推進事業、環境人財育成事業 等
目 標 値	① 北九州響灘ビオトープで開催するツアーの参加者 (4,000人/年、累計52,000人) ② 環境首都検定受験者数 (累計5万人超) ③ 市民意識調査結果におけるごみ減量・3Rを心がけている人の割合 (50%以上) ④ 市内の自然関連施設等の情報をまとめたポータルサイトへのアクセス数 (累計45,000回) ⑤ 北九州響灘ビオトープの年間利用者数 (1,000人増加) ⑥ 市民意識調査におけるリサイクルの推進や再生可能エネルギーの普及、自然環境の保全などの環境政策が進んでいると思う人の割合 (80%以上) ⑦ エコタウン見学者数 (100,000人/年以上) ⑧ イベントへの小学生・中学生の保護者を含む参加者数 (3ヶ年で150人)	
達 成 度	① 北九州響灘ビオトープで開催するツアーの参加者 (86%) ② 環境首都検定受験者数 (76%) ③ 市民意識調査結果におけるごみ減量・3Rを心がけている人の割合 (100%) ④ 市内の自然関連施設等の情報をまとめたポータルサイトへのアクセス数 (15%) ⑤ 北九州響灘ビオトープの年間利用者数 (100%) ⑥ 市民意識調査におけるリサイクルの推進や再生可能エネルギーの普及、自然環境の保全などの環境政策が進んでいると思う人の割合 (91%) ⑦ エコタウン見学者数 (35%) ⑧ イベントへの小学生・中学生の保護者を含む参加者数 (83%)	

73.25%

令和7年度 事業報告書

事業名	生物多様性戦略推進事業	新規・継続区分	継続
事項名	(1) 生態系の場の維持（旧：市民と自然のふれあい推進事業）	開始年度	平成27年度
担当部署	北九州市環境局総務政策部ネイチャーポジティブ推進課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

【目的】
生物多様性や豊かな自然がもたらす恵みを持続的に活用した「自然と共生するまち」づくりの推進に不可欠となる、優れた環境人材の育成を図る。

【目標】
エコツアーの開催や冊子を使ったPRを通じて、市民の自然環境に対する関心を高め、自然への理解及び守り育む意識の形成を図る。

【目標値】
本市の環境学習施設である「北九州市響灘ビオトープ」は、平成27年度に開設し、当初より、自然環境学習を通じて優れた環境人材の育成を図ることを目的に、市民を対象（要申込）とした自然環境講座（エコツアー）を開催している。
そのため、自然環境講座（エコツアー）への年間4,000人参加を目標に設定し、令和9年度までに累計参加者52,000人を目指す。

○自然環境講座（エコツアー）概要
響灘ビオトープでは、来園者に対して響灘ビオトープでみられる動植物について、専門のスタッフが解説しながら園内を案内するエコツアー（ガイドツアー）を行っており、自然とふれあいながら生物多様性の重要性や生態系の仕組みを学ぶことができる。

2. 概要

環境調査等を実施し、本市の代表的な自然環境拠点である曽根干潟等の自然環境の特徴や現況を把握し、調査結果を活用した自然環境講座（エコツアー）を実施することにより、自然と触れ合う機会を創出・提供し、市民啓発をすすめる。
また、令和7年5月に策定した北九州市生物多様性戦略の広報や、戦略を推進するために立ち上げたネイチャーポジティブセンター、ネイチャーポジティブネットワークの活動を通じて、生物多様性の保全やネイチャーポジティブについての普及啓発を進める。

3. 根拠法令等

○北九州市環境基本条例
○北九州市生物多様性戦略（2025年度-2030年度）

4. 実施内容等

【事業内容】
①本市の代表的な自然環境拠点である曽根干潟等の適切な保全と利活用のための環境調査の実施
・ 曽根干潟環境調査（鳥類）の実施
→ 調査結果は曽根干潟の自然共生サイト登録用資料として活用
②豊かで多様な自然環境にふれあうことで、市民が自然を守り愛する気持ちを育むことのできる自然環境講座（エコツアー）の開催
・ カブトガニ産卵観察ツアー（令和7年7月30日）の開催
③生物多様性地域戦略の広報に関する業務
・ 北九州市生物多様性戦略冊子の作成
・ ポスター、PR動画、SNS等を活用した広報
・ 「アーバンネイチャー北九州」広報のためのクイズイベント（令和7年11月8日） 等

【事業効果】
ネイチャーポジティブの実現に向けた市民の意識の浸透・向上（自然のファンを増やす）

令和7年度 事業報告書

事業名	環境人財育成事業	新規・継続区分	継続
事項名	(1) 北九州市環境首都検定	開始年度	平成27年度
担当部署	北九州市環境局総務政策部環境学習課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

【目的】 環境首都の実現や地球温暖化対策の推進に不可欠となる、優れた環境人財の育成を図る。 市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことのできる環境人財を育むために「環境首都検定」を実施。 小学校受検の実施や幅広く広報することで、市民に対する「環境首都検定」の周知と継続した受検者数の拡大を目指す。 【目標値】 平成20年度から18年にわたり実施した「環境首都検定」の受検者数の推移は、過去5年間をみると令和3年度は5,502人、令和7年度は3,961人となっている。 今後も継続して市民の環境意識を高め、優れた環境人財を育成する活動として、令和9年度時点の累計受検者数が5万人（H30年の北九州市の人口約94.7万人の約5%）を超えることを目標値とし、単年度受検者数を毎年4,500人以上とする。

2. 概要

市民一人ひとりが環境との関わりを理解し、より良い環境・地域づくりへの意識をもって行動を起こすことの出来る環境人財を育むため、「北九州市環境首都検定」を実施する。

3. 根拠法令等

○北九州市環境基本条例

4. 実施内容等

【事業内容】 「北九州市環境基本計画」（平成29年11月改訂）の戦略プロジェクト並びに「北九州市地球温暖化対策実行計画・環境モデル都市行動計画」（平成28年8月策定）の取組の一つで、検定問題・解答作成、受検申込の受付や採点等、検定実施の一連業務を行う。令和6年度より、従前実施していた会場受検を廃止し、原則Web受検のみを実施した。 【事業効果】 ①北九州市独自の環境分野の検定の実施により、環境意識のレベルアップや、環境に関心を持つ市民の裾野を広げる。 ②本市の環境首都への取組における認知度を高めるとともに、エコライフの取組を身近に感じることができきっかけをつくった。 ※令和7年度受検者数 3,961人
--

令和7年度 事業報告書

事業名	環境先端技術・施策の見える化普及啓発事業	新規・継続区分	継続
事項名	(1) 環境先端技術・施策の見える化普及啓発事業	開始年度	令和2年度
担当部署	北九州市環境局総務政策部環境学習課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

地球温暖化など地球規模での環境問題の解決には、一人ひとりがライフスタイルを見直し、市民・事業者・行政が一体となって環境保全活動を推進していく必要がある。このため、マスコットキャラクター「ていたん＆ブラックていたん」を活用し、ノーマイカーデーなどの地球温暖化対策への取組みやSDGsの実現など（主にSDG7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」やSDG13「気候変動に具体的な対策を」）、本市の環境先端施策について理解しやすいように説明し、市民の環境意識の啓発を行っている。

令和元年度に実施した市民意識調査の結果では、各項目について「毎日の暮らしの中で、どのような環境活動を実行しているか」の問いに対し「常に実行」「時々実行」と回答した人の割合がどちらも50%以下だった。

これを踏まえ、マスコットキャラクター「ていたん＆ブラックていたん」による環境意識の広報啓発を継続して行い、「常に実行」の割合を令和9年度には50%以上に高めることを目標とする。

○市民意識調査項目（令和6年度）

ごみの減量や3Rを心がけているか ※令和6年度の市民意識調査から「3Rの推進」の質問及び選択肢が変更。
「心がけている」73.1%、「時々心がけている」22.6%

2. 概要

環境に関する先端技術の提供、環境局の取組み、地球温暖化防止対策など、本市の環境行政全般について分かりやすく紹介し、市民の環境意識の啓発を図るため、環境マスコットキャラクター「ていたん＆ブラックていたん」を活用した啓発事業を行うもの。

3. 根拠法令等

○北九州市環境基本条例

4. 実施内容等

【事業内容】

本市の環境マスコットキャラクターである「ていたん＆ブラックていたん」をナビゲーターとして、ノーマイカーデーなどの地球温暖化対策への取組みやSDGsの実現などの環境先端技術をはじめとする情報全般を、市民にわかりやすくダイレクトに発信した。

- ・着ぐるみを活用した環境施策PR活動（訪問先：イベント計18回、市内幼稚園・保育園計29回訪問）
- ・X（旧Twitter）を活用した環境施策広報活動
- ・環境啓発グッズの作成（ていたん消しゴム）
- ・「ていたん・ブラックていたん」着ぐるみ貸出（36回）

【事業効果】

- ①積極的な環境情報の発信を通じて、市民の環境意識の啓発を行った。
- ②環境情報を活用した持続可能なライフスタイルの実践や環境保全への取組、環境政策への参加等を推進した。

令和7年度 事業報告書

事業名	ネイチャーポジティブ発信事業	新規・継続区分	継続
事項名	(1) 自然環境等のポータルサイト運営	開始年度	令和6年度
担当部署	北九州市環境局総務政策部ネイチャーポジティブ推進課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

【目的】

令和4年12月「生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）」で採択された新たな世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」において、いわゆる「ネイチャーポジティブ」が掲げられ、「生物多様性国家戦略2023-2030」においても、2030年ネイチャーポジティブの実現を目標としている。

ネイチャーポジティブの実現には、生物多様性や人と自然のつながりを重要視する価値観を形成することが必要である（国・基本戦略4）。このため、市内の自然環境や生物多様性について分かり易く発信するポータルサイトを開設し、市民が自然環境等に気づく機会を増やし、一人一人の行動変容を促すとともに、市外からの来訪者に対しても分かり易く情報を発信することで、北九州市の自然分野に関する価値観を提供し、都市ブランドの向上を図る。

【目標値】

ポータルサイトをより多くの市民に認知してもらうことが、本市の自然環境に気づく機会の向上等につながる。このため、サイトへのアクセス数：1,000回／月間、令和9年度までの累計45,000回を目標とする。

2. 概要

北九州市の自然環境等に関する全ての情報をひとつにまとめたポータルサイトを構築し、北九州市の自然の特徴や見どころ等を分かりやすく発信することで、市民が自然にアクセスする機会を増やし、ひとり一人に北九州市の自然を楽しんでもらうとともに、ネイチャーポジティブに対する理解を深めてもらう。また、市外からの来訪者にも北九州市の自然環境の素晴らしさを実感してもらい、都市ブランドの向上を図る。

3. 根拠法令等

- 昆明・モントリオール生物多様性枠組
- 生物多様性国家戦略2023-2030
- 生物多様性基本法第5条、27条

4. 実施内容等

【事業内容】

- (1) 平尾台や響灘ビオトープ等、市内の自然関連施設等の情報（基本情報・アクセス情報等）を一つにまとめたポータルサイトの保守管理及び運営
- (2) サイト内容充実のため、市内自然環境写真データの収集
- (3) 市民参加型のイベント（ネイチャーポジティブフォトコンテスト）を実施（令和7年8月）

【事業効果】

- 市民が生物多様性の認識を深めることによる、「市民環境力の向上」「環境保全の推進」「シビックプライドの醸成」及び「ウェルビーイングの実現」等
- 自然分野の分かりやすい情報発信による、「都市ブランドの向上」等

令和7年度 事業報告書

事業名	ネイチャーポジティブ発信事業	新規・継続区分	新規
事項名	(1) デジタル環境学習コンテンツを活用した啓発	開始年度	令和7年度
担当部署	北九州市環境局総務政策部ネイチャーポジティブ推進課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

【目的】 生物多様性に関する新たな世界目標となった「ネイチャーポジティブ」の実現に向け、市民が生物多様性への理解を深めるとともに、人と自然とのつながりを大切に思う価値観の醸成を推進することで、市民の行動変容を促す。 【目標】 スマートフォンアプリを活用したイベントを響灘ビオトープ等の市内各所で実施し、市内の自然環境や生き物に触れ合う機会の創出や市内の自然環境の魅力を発信することで、ネイチャーポジティブの実現に向けた機運醸成を図る。 (目標値) 響灘ビオトープの利用者増加 18,044人（R5実績） → 23,500人（R9目標）

2. 概要

北九州市は、工業を主体として発展した産業都市でありながら、都市に隣接した多くの特色ある自然が残されている。また、廃棄物処分場跡地を活用した響灘ビオトープは、日本最大級のビオトープであり、令和6年8月にはOECMIに登録されるなど、ネイチャーポジティブの実現に向けた様々な取組を進めている。 今後の更なる取組として、北九州市の自然環境の魅力発信や自然環境保全に関する知識の普及啓発を目的として、スマートフォンの生物判定アプリを活用した自然環境学習イベント等を行う。

3. 根拠法令等

○北九州市環境基本条例 ○北九州市生物多様性戦略（2025年度-2030年度）

4. 実施内容等

株式会社バイオームが提供する「biome」アプリ内の生物判定クエストを作成し、自然環境学習イベントとして市内の自然環境の魅力発信や普及啓発を行った（令和7年6月-7月）。
--

令和7年度 事業報告書

事業名	Re:chargekitaQプロジェクト プロモーション事業	新規・継続区分	新規
事項名	(1) Re:chargekitaQプロジェクト プロモーション事業	開始年度	令和7年度
担当部署	北九州市環境局グリーン成長推進部再生可能エネルギー導入推進課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

【目的】

日本最大のグリーン産業総合拠点を形成することにより「稼げるまち」の実現を目指す「北九州グリーンインパクト」の一環であるRe:chargekitaQプロジェクトを実施。再エネが豊富にあり、蓄電池リサイクラーや自動車メーカーが集積する北九州市の強みを最大限活かし、充電を切り口に環境先進都市として、更なる高みを目指す。

（重点項目）

- ・蓄電池の鉱物資源の確保に向けたサーキュラーエコノミーを推進
- ・都市の蓄電機能を拡大し、再生可能エネルギー導入と災害対応力強化を同時実現
- ・EV や PHEV の充電ライフスタイルに対応したまちづくりを推進

【目標値】

令和6年度に実施した市民意識調査の結果では、「北九州市政に期待すること」として掲げている15項目の中で、「環境施策の充実」は81人（13位/15項目）。これを踏まえ、再生可能エネルギーの広報啓発を継続して行い、市民意識調査において「北九州市はリサイクルの推進や再生可能エネルギーの普及、自然環境の保全などの環境政策は進んでいると思いますか」の政策への賛同者

「そう思う、どちらかと言えばそう思う」の割合について80%以上を目指す。

○市民意識調査項目

”北九州市・新ビジョン”（北九州市基本構想・基本計画）の中から15項目の中で、北九州市政に期待する取組を3つ選び、選択した取組の中でさらに期待する内容を質問したもの。

2. 概要

市内イベントやEV充電器のエネルギー源として市内の再エネを利用し、脱炭素への貢献度や重要性を市民・企業へ示し、エコフレンドリーな北九州市をPRするもの

3. 根拠法令等

○北九州市環境基本条例

4. 実施内容等

【事業内容】

リユースソーラーパネルおよびリユース蓄電池を組合せた街灯を活用し、市民に対してリユース資源の有用性や持続可能な社会づくりの必要性をわかりやすく普及啓発した

- ・エコタウンセンターの既設街灯をリユースパネル・リユース蓄電池・LEDを組合せた街灯にリニューアル
- ・エコタウンセンター訪問者やエコタウンセンターイベント時に当街灯を活用した啓発活動を実施

【事業効果】

エコタウンセンターイベント「牛乳パックでつくるソーラーランタン」にて工作とあわせ説明を実施

2026/2/7(土) AM,PMの部 合計 22組 55名参加

イベント後のアンケートにて、再エネや資源循環への関心が高まったと回答した割合 82.6%

R7年度市民意識調査の「北九州市は、リサイクルの推進や再生可能エネルギーの普及、自然環境の保全などの環境政策が進んでいると思いますか。」の満足度（そう思う、どちらかと言えばそう思う）の割合73.4%で満足度スコア:0.860で1位

令和7年度 事業報告書

事業名	サステナブルシティ拠点化事業	新規・継続区分	新規
事項名	(1) サステナブルシティ拠点化事業	開始年度	令和7年度
担当部署	北九州市環境局グリーン成長推進部 サークュラーエコノミー推進課、再生可能エネルギー導入推進課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

【目的】 北九州市エコタウンセンターは、エコタウンや次世代エネルギーに関する事業を生きた教材として活用する環境学習拠点として、市民の環境に対する理解を深めてもらう上で重要な役割を担っており、市内小中学校をはじめ、毎年多くの見学者が訪れている。 このエコタウンセンターが立地される北九州市響灘エリアでは、令和7年度末に、日本最大規模の洋上風力発電設備「響灘洋上ウインドファーム」の稼働が予定されるほか、今後、炭素中立（カーボンニュートラル）・自然再興（ネイチャーポジティブ）・循環経済（サーキュラーエコノミー）といったあらゆる分野を総合的に展示する国内随一のサステナブルシティ拠点となることを目指しており、来年度以降、そのシンボル施設であるエコタウンセンターの展示のリニューアルを計画している。 リニューアルにあたり、現在のパネル主体の展示内容から、最新情報への入れ替えが容易なデジタル技術を活用したものとし、さらに「知る」「触れる」「見る・体験する」をコンセプトに抜本的な展示のリブランディングを行うことで、環境学習効果を増大させ、市民環境力のさらなる向上を図るものである。 【目標値】 エコタウン見学者数300,000人/3年（100,000人/年）以上を目標とする。

2. 概要

令和7年度に響灘沖で運転開始予定の洋上風力発電をはじめ、炭素中立（カーボンニュートラル）・自然再興（ネイチャーポジティブ）・循環経済（サーキュラーエコノミーなど、北九州市や北九州市の特色ある企業の最新の取組情報について、市民や地域大学、関連企業などと連携して環境啓発のコンテンツやソフト、映像の制作等を行う。

3. 根拠法令等

○北九州市環境基本条例

4. 実施内容等

炭素中立（カーボンニュートラル）・自然再興（ネイチャーポジティブ）・循環経済（サーキュラーエコノミー）に関する取組みを紹介し、市内小中学生をはじめとした地域住民の知識の習得や環境意識の高揚に取組み、市民環境力のさらなる向上を図る。
--

令和7年度 事業報告書

事業名	北九州市風力発電人材育成事業	新規・継続区分	新規
事項名	(1) 北九州市風力発電人材育成事業	開始年度	令和7年度
担当部署	北九州市環境局総務政策部環境学習課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

【目的】

本市では、2050 年カーボンニュートラルの実現に向け、再生可能エネルギーの切り札とされる洋上風力発電の導入拡大を目指す中、令和7年度には港湾区域内で建設が進められていた響灘洋上ウインドファームの運転が開始されており、今後、風力発電への注目が益々高まってくる。これを機に、小学生・中学生を対象にイベントを開催し、子供たちの「風力発電」に対する興味喚起へとつなげ、環境人財を育成する。

【目標値】

小学生、中学生の参加者数（保護者除く）：350人（3ヵ年累計）

2. 概要

「楽しむ」×「学ぶ」をテーマとして、北九州市内に立地する風力発電関連企業等の協力のもと、風力発電などの再生可能エネルギーの取組紹介に加え、工作キットによる風車の製作や陸上・洋上風車の視察による体験を通じたイベントを開催するもの。

3. 根拠法令等

○北九州市環境基本条例

4. 実施内容等

北九州市内の小学生、中学生を対象に以下の3つのイベントを実施した。

【対象】小学生、中学生

【定員】170人程度

【参加者数】125人（保護者除く）

【催事内容】

- ・北九州市における洋上風力発電などの再生可能エネルギーの取組紹介
- ・風車製作キット（市販）を活用したワークショップ
- ・陸上・洋上風車視察（陸上より視察）（※ウィンターフェスティバル）

日 程：令和7年10月11日（火）

イベント：グローバルウインドデイ

開催場所：北九州市エコタウンセンター

参加者：全41人

日 程：令和7年11月8日（土）、9日（日）

イベント：エコライフステージ

開催場所：北九州市役所近隣会場

参加者：全70人

日 程：令和8年2月7日（土）

イベント：ウィンターフェスティバル

開催場所：北九州市エコタウンセンター

参加者：全14人